

# 吟剣詩薈

g i n k e n s h i b u

日本財団助成事業

## 第4回

宗家・会長会議を開催

吟剣詩舞の発展と普及のために  
何を為すべきか

## 第6回

東日本聖吟士会吟詠と  
研修の集い

日本財団助成事業

全国少壮吟詠家

選考審査会「研修会」開催

表紙の詩

寒梅 新島襄

庭上の寒梅

笑つて風雪を侵して開く

争わず又力めず

自ら百花の魁を占む

3

令和7年  
弥生



# 日本財団助成事業

## 日本財団ビルに全国から23人が集まり、第4回宗家・会長会議を開催

# 吟剣詩舞の発展と普及のために 何を為すべきか

日時 令和7年1月16日(木)  
場所 東京・日本財団ビル第1・第4会議室

令和2年1月に第1回が開催されて以来、コロナ禍での中止をはさんで今年で第4回目を迎えた「宗家・会長会議」。少子高齢化などで愛好者数が減少している吟剣詩舞界をいかに活性化していくか等、全国の各流派の宗家・会長が一堂に会して意見を述べあうという会議ですが、今年も昨年同様日本財団ビルにて日本財団笹川陽平会長・ご臨席のもとで実施されました。今回は全国7地区の連絡協議会から23名の宗家・会長が参加。地元でどのような活動をしているか、あるいは疑問に思っていることなど忌憚のない意見が交わされました。



日本財団の4つの会議室を通して開催された「第4回宗家・会長会議」。最初に日本吟剣詩舞振興会の沼崎富会長が挨拶。意見交換ではモニター2台に内容が表示された

### 日本財団笹川陽平会長 一致団結して武道館大会の成功を

「礼節というのは柔道、剣道、華道、茶道というように道がつくものに存在するわけで、皆様も吟剣詩舞道という世界に類を見ない伝統文化の一翼を背負っていらっしゃいます。しかし伝統は古いままでいいというわけではなく、本質は失われないまでも現代にマッチした方法で変化していくことが大切です。そういう意味で、皆様方がSNSを活用したり若年層に働きかけたりして、吟剣詩舞道の発展に真剣に取り組んでいらっしゃるということを知って大変うれしく思います。また私どものお願いを聞き入れていただき、この11月には再び武道館で大会が開催されることになりました。皆様方の燃えるような情熱で一致団結し、大会の成功を目指していただくようお願いします」

「第1回宗家・会長会議」は、日本吟剣詩舞振興会が取り組んできた改革・改善の方向性を理解していただくことを主旨として令和2年1月に開催。少子高齢化等の影響で吟剣詩舞愛好家が減少しているなか、その後コロナ禍によりさらにその傾向が顕著に。令和5年に開催された第2回からは参加者の人数を絞り、できるだけ多くの参加者が発言できる体制としたうえで、各流派で吟剣詩舞の発展のためにどのような活動をし、何が課題なのか議論しあう会へと変化しました。

第1回目の参加者55人に対して、今回は各地区連から推薦された23人が参加。まず日本吟剣詩舞振興会沼崎富会長が「日本財団笹川陽平会長のご提案により、外部識者検討会を昨年3回開催し、若年層へのアプローチ、地域社会との連携等に取り組んでいます」と挨拶。続いて笹川陽平会長が「愛好者の人口が減っている今こそ、一致団結して発展を目指してほしい」と訴えました(上のコラム参照)。



会議に先立ち日本財団笹川陽平会長、日本吟剣詩舞振興会役員と各地区連協から推薦された宗家・会長23人による記念撮影が行われた



閉会の挨拶を述べる日本吟剣詩舞振興会徳田寿風副会長。その隣から沼崎富会長、早淵鯉将副会長、池内賢二専務理事



鈴木吟亮理事が作成した「当振興会の現状と対策についてのレポートサマリー」

### 「意見交換」での各宗家・会長の意見



八代光晃子会長(宮崎)「コロナと少子高齢化の影響は大きいがあきらかに『とつぜんライブ』と称して街で詩吟をし、その模様をYouTubeで発信している。西日本少壮吟士会では『吟詠リレー』も行った」と発表



菅源右光宗家代行(山口)「新しい取り組みを考えて企画書を作ったら、財団事務局から補助が出るような仕組みを作ってほしい」と提案。池内専務理事から「青少年育成基金からの補助の可能性もあるし面白いアイデア」と返答があった



中尾仁泉本部長(大阪) 最後に指名により発言。「今回お話があったことはほとんどやってきて、会員も減っていない。SNSも大切だけど基本は人と人のつながりで情熱を持つこと。武道館も全国の宗家に依頼すれば満員にできるでしょう」と力説した



山西岳城会長(三重)「なじみやすい歌謡吟詠を財団のYouTubeに載せてほしい」と提案。池内専務理事が著作権の問題を指摘したが、中武玲星会長が「奉納吟詠等をしているが民謡や唱歌と絡めると参拝者なども理解しやすい」と実例を報告した

要では」と提案。さらに鈴木吟亮理事が自ら作成した「当振興会の現状と対策についてのレポートサマリー」をもとにして、振興会30周年の25年前と比べ吟剣詩舞愛好家が3分の1に減少し、25年間で平均年齢が20歳程度高くなっていると分析。その対策を発表しました(図参照)。続いて「業界活性化、吟剣詩舞を知らない方々への取り組み」をテーマに、各宗家・会長による意見交換。

発言希望者を募ったところ、まず中国地区の菅源右光宗家代行が発表。その後次々と意見が交わされました「意見交換」での各宗家・会長の意見参照。

白熱した論議は3時間以上におよび、全員の発言には至らなかったものの17人が発表。場を移しての懇親会でも意見交換と交流が図られ、吟剣詩舞の発展と武道館大会の成功を誓い合いました。